

☆地区研修・協議会報告

(以下1面より続く)

織田ガバナーエレクトのテーマ「地域密着のロータリーを目指そう」

＜やって欲しいこと＞①皆がロータリー活動に参加してほしい。②ロータリーの行動規範に沿って行動して欲しい。③My Rotaryを見て欲しい。

＜期待すること＞①常に会員の維持と増強を考え、会員数は地区の経済・資金と直結していることを認識して活動してくれることを期待する。

＜お願い事項＞①クラブや地区役員の仕事を My Rotary で確認して欲しい。②国際ロータリーの定款細則を見て欲しい。例 第16条ガバナー、ガバナーの仕事とは。

＜地域のロータリーを目指そう＞①あなたの地域の元気を保つために、ロータリーでできることを考える。②あなたの地域の課題を見つけ、解決策を探る。③明るい未来を夢見る人たちを、見守り助けるのがロータリー（クラブ）になる。

＜すべてのハラスメントに対応する＞

①気づいてますか？それハラスメント→ロータリー章典「2120.2 虐待及びハラスメントの防止と報告手続き」第2項及び「26.120.1 成人のハラスメント方針に関する研修」

＜国際大会に行こう＞ RI 台北国際大会 2026年6月13日～6月17日

(4) <半田次期ロータリー財団委員会委員長>

財団の目標 1人150ドルの寄付、寄付ゼロの解消、ポリオ1人40ドル。

(5) <市原次期財務委員長>

2670地区の地区資金についてはここ2～3年特に厳しい状況に陥っている、主な原因は2013年～2024年の12年間で会員数が2,924人から2,747人と177人も減少している(今治クラブ消滅、現在の退会者数を含む)。また15人以下のクラブも5クラブと危機的な状況にある。

現在の会員、会費で試算すると一般会計で年間390万円の赤字が予想される。喫緊の問題として打開策を講じなければこの先も回復は望めない。会員一人当たり年間9,000円(半期4,500円づつ)の会費を3,000円の値上げを申請したが否決された。

そこで再度地区一般会計、特別会計で節約できるところはないか精査し、無駄な会計、節約できる会計を洗い出してみた。

特別会計で繰越金が2012～2021年の10年間はほとんど変化なしで、2021～2024年は約10,150万円が留保されている。

＜特別会計の中から＞

①短期交換学生計画の分担金 1人上半期2,500円を500円だけアップさせてほしい。

②青少年奉仕委員会会計は約2,200万円繰越金があるが、実際には現在2,400万円ぐらいある。

③緊急災害援助準備金 現在4,500万円程度資金があるがこれは5,000万円を上限として打ち切り、一般会計繰り入れに回すようにする

以上のように細かい部分も精査、旅費規定も今回大幅に見直しをかけた結果、特別会計より今期460万円を一般会計に繰り入れしたい、460万程度で何年かは凌げる予定である、この案を各クラブで了解を得たい。

④一度各クラブに持ち帰り、クラブ内でこのことを話し合い、ガバナーエレクト事務所より郵便で賛否を問う書類を送るので、クラブとしての返答を必ず欲しい。

⑤この件に対し、会場参加者の決裁を取り、拍手多数にて可決した。

次期国際奉仕委員長 平井 尚昭

国際奉仕部門の地区研修・協議会に参加しましたので概要を報告いたします。

地区国際奉仕の目標は、① 国際間の理解と親善 ② 平和の推進の2点であります。

目標を実行するにあたり①長期交換小委員会 ②短期交換小委員会 ③国際奉仕ファンド小委員会の3つの小委員会で構成され、それぞれ活動を行っています。

長期交換派遣は、個別派遣という形態を取り、語学研修が目的ではなく民間親善大使の役張りを担っています。本年3月時点で2名の候補生が本年8月より1年間、アメリカ及びオーストラリアへの派遣が決まっています。

短期交換派遣は、団体派遣という形態で今年度も派遣学生20名とリーダー合わせて約23名のメンバーで構成され、RI7475地区（米国ニュージャージー州北部）を中心に回る予定です。短期交換事業自体は、世界的なパンデミック等で一時中断はありましたが、1978年より47年間継続しています。当クラブも派遣及び受入れを実施する予定ですので皆様の御協力をお願いします。

国際奉仕ファンド小委員会は、各クラブ実施の国際奉仕への支援・協力に対する補助金（ファンド原資）による助成及び書き損じ葉書の収益による識字率向上プロジェクト“世界寺子屋運動”への寄付等の活動を行っています。皆様のご協力により、当クラブも寄付できましたことをご報告するとともに感謝申し上げます。

次期幹事 薬師神 良昭

会員増強・維持・退会防止委員会に出席してきました。

まず、各地区のガバナー補佐から各分区やクラブの会員数や出席率の推移などの発表がありました。その中でも、高知第Ⅱ分区ガバナー補佐の発表で、クラブの会員数が減少している理由として、会員の高齢化および退会した会員の補充ができていないことが一因とし、会員が所属する企業が元気になり、後継者が育成され、会員が引退しても後継者がその後を継いで入会するという企業の活性化が大事だと発表されました。その点は八幡浜もあてはまることだと感じています。

道後ロータリークラブでは、会員それぞれがビジネスパートナーに声をかけ、例会に誘い、オープンロータリーと称した例会をし、ロータリーへ勧誘しているという話もありました。

一方で、ロータリーは敷居が高い、金持ちの集まりなどのイメージが強く、若者にとって入会したいという思いに至るまでいかないのが現状のようです。

最後に質問をされた方が、ガバナー方針で「地域密着のロータリーを目指そう」とあるが、愛媛では、ライオンズのほうが認知度も高く、地域密着でやっているのので、ロータリーも今よりさらに地域密着の活動が必要ではないかという意見もありました。

当クラブもこれからどのように地域と連携し、持続可能な奉仕活動を行っていくかが重要であるのではないかと考えています。

